

## 桜 島

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

本日(6日)11時25分に昭和火口で発生した爆発的噴火<sup>1)</sup>に伴い、火砕流が発生しました。本日実施した現地調査及び、鹿児島県の協力による上空からの観測では、火砕流は昭和火口の東約1.3kmまで達していました。また、噴石が5合目(火口から約500m)まで飛散したのを確認しました。

昭和火口及び南岳火口から2km程度の範囲では警戒が必要です。また、降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。風下側では降灰や火山れき(小さな噴石)に注意してください。

火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)が継続しています。予報警報事項に変更はありません。

### 活動概況

#### ・噴煙活動の状況(図1、図2)

昭和火口では、本日10時33分と11時25分に爆発的噴火が発生し、11時25分の爆発的噴火では火砕流が東側へおよそ1.3km流下しました。噴煙は灰色で火口上1000mで雲に入り南東方向に流れました。また、現地調査では、噴石が5合目(火口から約500m)まで飛散したのを確認しました。

#### ・昭和火口周辺の状況(図1～3)

6日11時25分に発生した爆発的噴火に伴った火砕流による堆積物を確認しました。熱映像装置<sup>2)</sup>による観測では堆積物が周囲より高い温度を示しました。

また、鹿児島県の協力を得て行なった上空からの観測では、火砕流の流下跡が昭和火口から東側約1.3kmまで達しているのを確認しました。

#### ・地震・微動活動の状況

火山性地震及び火山性微動の発生状況に特段の変化はみられません。

1) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または气象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としています。

2) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する機器であり、熱源から離れた場所から温度を測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この資料は気象庁のほか、鹿児島大学、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平17総使、第503号)。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)で閲覧することができます。



図1 桜島 2月6日11時25分の爆発的噴火(黒神河原にて撮影)  
・灰白色の噴煙が高さ1000mまで上がり、雲に入りました。  
・昭和火口の東方向に火砕流が流下しました。  
・はっきり聞こえる程度の爆発音を観測しました。



図2 桜島 鹿児島県の協力により撮影した上空からの写真  
昭和火口から東側へ流下した火砕流の先端は、昭和火口から約1.3kmに達していました。

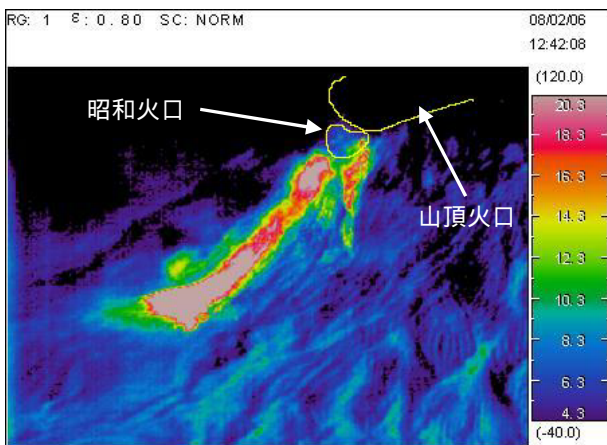


図3 桜島 鹿児島県の協力により撮影した上空からの熱画像(左図)  
・火砕流による堆積物は周囲よりも高温となっています  
・右写真の黄色枠内が左の熱画像に対応しています。

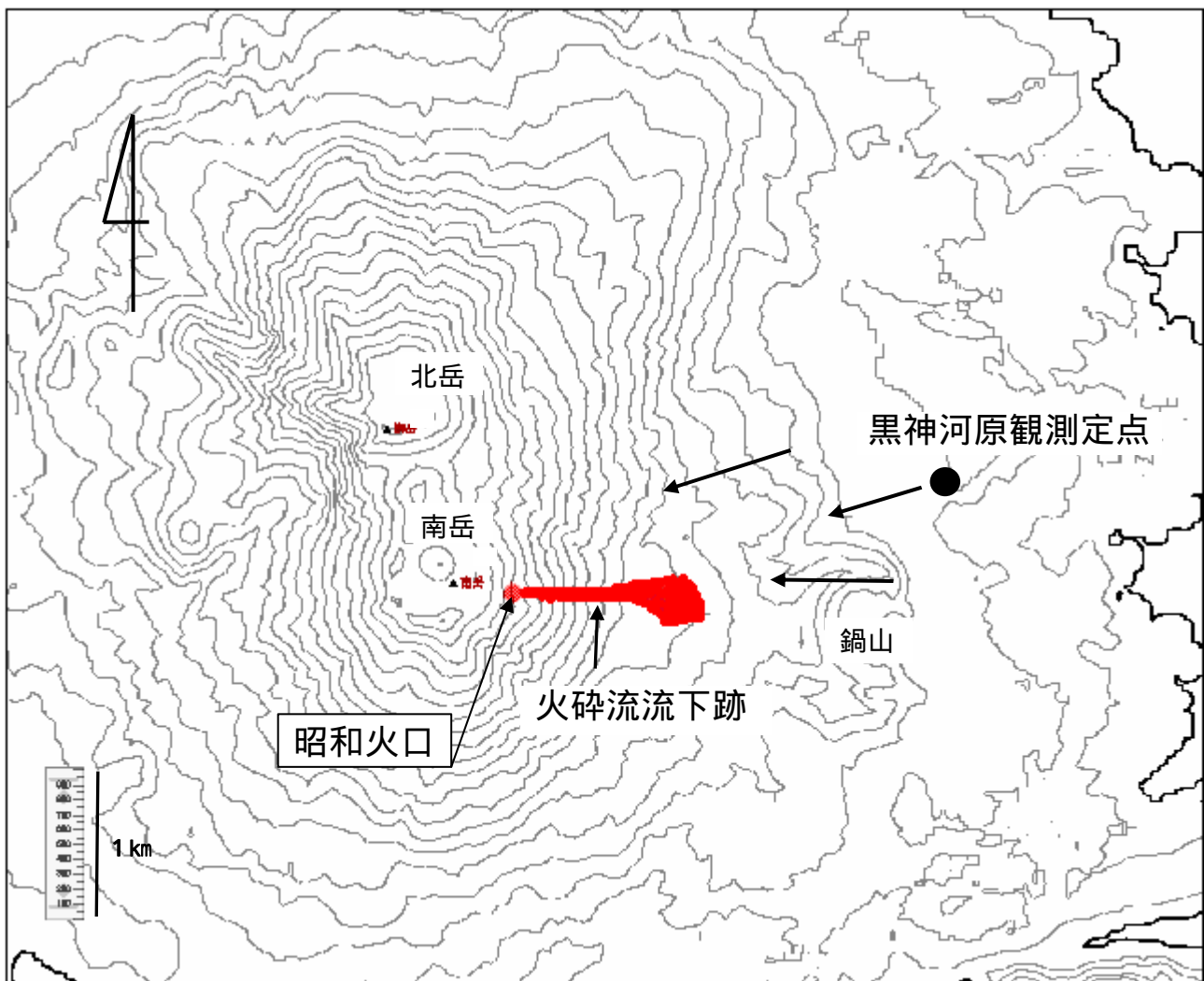


図4 桜島 火砕流流下跡  
図の矢印は図1～3の撮影方向を示しています。  
( :図1、 :図2、 :図3)